

広島県福山市。古くは豊臣秀吉の時代から、御用表・献上表として使われてきた備後畳表の生産地です。その南西部、瀬戸内海を見下ろす山地に沼隈町があります。この界隈で織られる畳表は「備後本口表」と呼ばれ、備後畳表の中でも最高級品とされているのです。

山地で育つ固く粘りのある蘭草を3キ以上使って織られた重厚な畳表。中でも一番長い蘭草で織られた畳表は「長引表」と呼ばれ、使うほどに光沢が出て気品のある黄金色に退色し、その目

素描

消えゆく本物—備後畳表

岐阜県畳組合理事長 石河恒夫

立ちのある足裏感是他では味わうことができません。長さ約3尺ほどの蘭草が、仏壇の前に立て

6年前、私は備後表生てありました。異業種の産者の第一人者である廣川さんが廣川さんの蘭田を川宏志さんを訪ねまし借りて蘭草栽培をした。京都の迎賓館や御所など、宮内庁の多くの建さでは畳表の製織は無理物の畳に廣川さんの備後表が使われています。毎技術が必要とされます。表が使われています。廣川さんはかつて、長引は、日頃見られないよう表に使う背丈以上の蘭草な備後表が何百枚も並を収穫されていました。常軌を逸脱した絶品。ところが2年前、農作本物の畳とは、備後畳表業中に起きた不慮の事故が使われた藁藁だけに、廣川さんは67歳とい許された言葉でしょう。う若さで帰らぬ人となつその500年の歴史がてしまったのです。昨年今、途絶えようとしてい夏、廣川さんのご仏前にます。